

知道 CHIDO-KAIHO 会報

98

編集 知道会広報委員会
〒310-0011水戸市三の丸3-10-1
茨城県立水戸第一高等学校内
稲葉節生
発行人 稲葉節生
発行日 令和3年5月1日
通巻 第98号
メール chidokai_mito@chidokai.jp
HP www.chidokai.jp

目次	水戸一高と知道会 変わらないこと・変わっていくこと、これから	1
	第45回代議員会	3
	一高だより	4
	映画の話 小泉堯史監督インタビュー	6

～稲葉新会長に聞く～ 水戸一高と知道会 変わらないこと・変わっていくこと、これから

昭和から平成へ 生徒たちと過ごした時間

昭和52年4月に赴任し、11年間化学を教えていました。当時、女子バスケットボール部がなく、「男子があるのに女子がないのはおかしい」と言われまして、昭和55年に初めて女子バスケ部ができ、顧問になりました。ほか、理研化学班の顧問も務めていました。

赴任中に創立100周年を迎えて、100周年記念歌ができました。卒業式で歌う式歌を生徒の投票で決めていた時代があったかと思いますが、その頃はこの歌を歌っていたのも印象的です（「誰も歩いたことのない道を」）。その後、平成14、15、16年には校長を務めました。当時の卒業生で、生徒たちは森山直太朗の「さくら」を歌いたいと。今は「仰げば尊し」を歌うと聞きました。年代によっての変化かなと思います。

「なんでもやる」よい意味での「欲張り」な校風

変わらないのは「なんでもやっていこう」という良い意味での「欲張り」なことだと思います。勉強

をするから部活はやらない、部活をするから遊びはしない、ということではなく、勉強も、部活も、遊びもぜんぶやる。

入学当初は、それはあまりにも欲張りで、無理だろうと思うのですが、学校になじむうちに、みんなでやればいい、みんなでやればなんとかなる、とみんな思うようになる。

また、他校に赴任して強く思うこともあります。ある学校では、学力向上に力を入れ、成績も非常に良いし、日頃の態度もとてもおとなしく静かで、服装もあいさつもきちんとできるんです。しかし、それは自分から自発的に行っているのではない。自分たちはどうしたいのか、なぜそうする必要があるのか、他から言われるからそうしているのであって、いろいろな発想が自分から出てこない。

一高は、全然勉強しない子や、なにやってんだ、という子もいますが、将来が不安でならないという子はいない。これをやったらダメ、こうなるんだということがきちんと分かっている。後輩にも、これをしたら駄目だと伝えられるんですよ。



稲葉節生（昭38卒）

変化する水戸一高に必要な、知道会の強い「繋がり」

中高一貫が始まることで、卒業生が6年後には6クラス240人となります。絶対数が減少すること、正直なところ大きな危機感を感じています。知道会の大きな役割は「母校支援」であり、その基礎となる会員からの会費納入については以前から大きな問題となっており、現在母校支援のほとんどは寄附で行っているのが現状です。知道会には、地域、職域、学年、部活動の同窓会など、実に多くの会があります。会員数減少の現状をふまえて、今後のために本部と支部等の繋がりをより強固にし、新たな展開を目指していきたいと思います。皆様のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

退任のご挨拶 鬼澤邦夫

昨年11月の代議員会の終了をもちまして、会長の職を退きました。

平成26年11月の就任以来、3期6年間に亘りましてどうか会長の職を務めることが出来たのも、偏に皆様方のご支援、ご協力の賜物であります。この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。長い間、本当にありがとうございました。

母校水戸一高は附属中学の設置や新型コロナウイルス感染対策、高校普通科改革への対応など今後なお一層の支援が必要とされる時であり、水戸一高校長、県教育長などを歴任された稲葉新会長が就任されたことは誠に喜ばしいことと思っております。

会員の皆様におかれましては引き続き知道会活動へのご協力をお願いいたしますとともに、母校ならびに知道会の益々の発展を祈念いたしまして、御礼のご挨拶とさせていただきます。

新会長に稲葉節生氏（昭38卒）を選任 初の女性副会長に伊藤道子氏（昭53卒）

令和2年11月28日（土）水戸京成ホテルにて開催された代議員会におきまして、新たな会長に稲葉節生氏（昭39卒）が、監事には小野瀬益夫氏（昭51卒）と、退任する篠原勉氏（昭48卒）の後任として安智範氏（昭60卒）の2名が選任されました。

会長が指名する副会長には、新たに後藤克己氏（昭43卒）、栗原英則氏（昭48卒）、伊藤道子氏（昭53卒）が委嘱され、井内義興氏（昭33卒・西日本水中一高会会長）、江幡秀則氏（昭47卒・東京知道会会長）とともに5名体制となりました。伊藤氏は知道会では初の女性副会長になります。

退任の鬼澤前会長（昭38卒）は顧問に委嘱され、稲葉会長のもとでの新体制がスタートしました。（幹事会および委員会の編成については7ページに記載しています。）

今年の「会員の集い」は11月13日（土）水戸京成ホテルで開催します

副会長よりご挨拶

後藤克己（昭43卒）：新任



この度、稲葉会長のもとで副会長を仰せつかりました。

水戸一高と関わった時間は、生徒、教員、教頭と合わせて21年間になります。この間、教員として100年記念事業、110周年における生徒海外派遣事業（インドネシア）に関わ

りました。振り返れば、母校が様々な面で発展の軌跡を描く歴史の中で生活したといえます。

しかし、昨今の社会の変化は激しく、特に少子化の影響は教育界に大きな地殻変動をもたらすものと思われます。母校もまた更に規模が縮小するなど、今までどおりにはいかない状況です。そのような中、本校で過ごす限られた時間の中で、生徒一人一人がこれまでの一人分よりどれだけ大きく育っていくかが注目点となるでしょう。

その観点で、知道会として今後母校に対し何がどうできるのか、会員みなさんと共に探っていきたいと考えています。

栗原英則（昭48卒）：新任



このたび稲葉会長からの指名により副会長を委嘱されました昭和48年卒の栗原です。平成21年から30年までの8年間、知道会の幹事長を務めておりました。

知道会の目的は会員相互の親睦と母校への支援、この二つが会則に定められています。若い会員の皆さんにも気軽に参加してもらいながら組織の充実を図り、母校への支援がこれからも末永く続けられるよう、お手伝いしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

伊藤道子（昭53卒）：新任



この度、副会長を拝命しました昭和53年卒の伊藤です。思いもよらぬ稲葉会長からのご推薦に、卒業生として大きな喜びであるとともに、責任の重さに身の引き締まる思いで一杯です。

思い起こせば、20年ほど前から、

医師として歩く会のボランティアに参加するようになり、救援バスに乗って大休止の時には体育館で足の治療を手伝ったり、熱発などの体調不良者に対応したりしました。また、学校のAED導入にも関わらせていただき、当時の稲葉校長先生には大変お世話になりました。12年前からは、学校医として、養護教諭と連携しながら生徒の健康管理のお手伝いをさせていただいております。

今後、変わりゆく母校をしっかりと見守りながら、微力ではありますが、地元で仕事をさせていただいている卒業生の一人として、知道会の発展のために鋭意努力してまいりますので、皆様のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

井内義興（昭33卒・西日本水中一高会長）：再任



皆さん、初めまして。私は、井内義興（昭33年卒）です。西日本水中一高会長と知道会副会長をしております。ご挨拶と副会長としての思いをお話したいと考えます。戦後、人々の価値観は激変し、先の予測出来ない状況になっております。その上、1991年平成不況から現在までの30年間は、失われた30年間です。この間に卓越した政策もとられておりません。今回のコロナ騒動でパニック状態になり、的確な財政政策・経済政策も実行されず、考えられないような、ばらまき政策をして日本の将来が不安になります。このような時だからこそ、各会員の心の拠り所として、クリエイティブな会を目指して、進化させるべきと考えております。

江幡秀則（昭47卒・東京知道会会長）：再任



昭和47年卒の江幡秀則です。副会長として3年目を迎えます。

東京知道会会長も拝命していますが、東京知道会も昨年から新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて従来の形の活動は自粛せざるを得ない状況が続いています。そんな中でも若手（といっても50歳前後ですが）を中心に、オンラインによる会員間の交流を活発に行っています。

「災い転じて福となす」、オンラインを活用した、これからの時代にマッチする同窓会活動を検討する良い機会かもしれません。

第70期第45回代議員会

第70期（令和2年10月～令和3年9月）第45回代議員会が令和2年11月28日（土）知道会会員の集いに先立ち12時15分から水戸京成ホテルにおいて開催されました。審議等概要は以下の通りです。

- (1) 第69期事業報告として委員会活動と事業、母校助成協力事業および学年・地域・職域知道会の活動状況が河野幹事長から報告され、了承されました。
 - (2) 第69期決算について関田財務委員長から、監査結果について小野瀬監事から報告され、承認されました。
 - (3) 第70期の事業計画案が河野幹事長から説明され、原案通り承認されました。
 - (4) 第70期の予算案が関田財務委員長から説明され、原案通り承認されました。
 - (5) 母校創立140周年記念事業の進捗状況が河野幹事長より報告され、了承されました。
 - (6) 第70、71期の役員改選案が幹事長から説明され、下記の通り承認されました。
- 会長
稲葉 節生 昭和38年卒
監事
小野瀬益夫 昭和51年卒(再任)
監事
安 智範 昭和60年卒

第70期 収支予算書

自令和2年10月1日
至令和3年9月30日

収 入 の 部 (単位:円)				
科 目	予算額 a	前期予算額 b	増減額 a-b	備考
年会費	7,300,000	7,500,000	△ 200,000	
卒業生入会金	1,600,000	1,600,000	0	新卒320名
寄附金収入	500,000	200,000	300,000	
会員の集い収入	0	2,400,000	△ 2,400,000	
グッズ販売収入	1,100,000	0	1,100,000	※ 3
受取利息	1,150	2,500	△ 1,350	
特別積立金取崩	1,000,000	2,000,000	△ 1,000,000	
140周年会計から繰入	2,000,000	2,000,000	0	海外派遣及び大会補助
雑収入	50,000	50,000	0	
当期収入合計	(13,551,150)	(15,752,500)	(△ 2,201,350)	
前期繰越金	(3,309,359)	(2,011,909)	(1,297,450)	
収入の部合計	(16,860,509)	(17,764,409)	(△ 903,900)	

支 出 の 部				
科 目	予算額 a	前期予算額 b	増減額 a-b	備考
運営費	(11,500,000)	(12,850,000)	(△ 1,350,000)	
会員の集い費	600,000	2,400,000	△ 1,800,000	
会議費	100,000	100,000	0	
事務局運営費	1,300,000	1,300,000	0	
通信費	3,400,000	3,250,000	150,000	
消耗品費	150,000	150,000	0	
旅費交通費	200,000	200,000	0	
渉外費	100,000	100,000	0	
支部強化費	400,000	400,000	0	
振替手数料	850,000	700,000	150,000	
印刷費	4,200,000	4,200,000	0	
リース料	200,000	50,000	150,000	複合機更新
事業費	(1,400,000)	(1,150,000)	(250,000)	
総務委員会費	20,000	20,000	0	
財務委員会費	20,000	20,000	0	
広報委員会費	100,000	850,000	△ 750,000	
名簿委員会費	10,000	10,000	0	
親睦委員会費	150,000	150,000	0	
グッズ製作費	1,000,000	0	1,000,000	※ 3
会費納入促進対策費	100,000	100,000	0	
母校助成費	(3,350,000)	(3,340,000)	(10,000)	
卒業記念品費	650,000	640,000	10,000	
大会遠征費補助金	800,000	800,000	0	※ 1
卒業生褒賞費	400,000	400,000	0	
海外派遣助成費	1,500,000	1,500,000	0	※ 2
特別積立金繰入	(0)	(0)	(0)	
予備費	(610,509)	(424,409)	(186,100)	
当期支出合計	(16,860,509)	(17,764,409)	(△ 903,900)	
次期繰越金	(0)	(0)	(0)	
支出の部合計	(16,860,509)	(17,764,409)	(△ 903,900)	

※1 生徒の大会出場交通費に対する140周年記念事業基金を原資とした助成
 ※2 「生徒海外派遣プログラム」に対する140周年記念事業基金を原資とした助成
 ※3 グッズ販売・製作費は「母校をたずねる」2,000部（うち1,000部は学校寄付）、オリジナルネクタイ300本製作販売

『令和2年 知道会会員の集い(講演会)』



令和2年11月28日（土）、水戸京成ホテルにおいて知道会会員の集いが開催されました。今年度は、コロナ感染拡大防止のため、講演会のための開催とし、講演は知道会館からのオンライン中継となりました。また、講演の内容は、YouTubeでリアルタイム配信されました。

講演①は、平成17年卒北澤佑子教諭の「南極せんせいのメッセージ」、講演②は平成元年卒の山口悟医師の「トランスジェンダーと向き合って～性別適合手術の夜明け～」。知道会館には在校生10名ほどが参加して、活発な質疑応答が交わされました。

講演会の様子は、右記のQRコードからご覧いただけます。



夜のピクニック 生徒観劇会報告



令和2年10月1日から4日まで水戸芸術館において上演された音楽劇「夜のピクニック」の生徒観劇会は、募金に対し341名の方から約246万円のご協力をいただき実施致しました。

新型コロナウイルスの影響により公演は日程短縮、回数減となり入場者数も制限されたため劇場での開催は断念し、舞台の収録映像をインターネットを通じて自宅などで視聴してもらう形とし、全生徒に視聴権利を配布して1、2年生は11月に、3年生は3月に視聴しました。

また1万円以上のご協力者への特典として予定していたゲネプロへの招待につきましても同じく入場者数制限により実施困難となり、公演を収録したDVDをお送りして代えさせていただきました。ご協力者のご芳名を記載したパンフレットは知道会ホームページからご覧いただけます。ご協力を賜りました皆様に改めて感謝を申し上げます。

令和3年度定期人事異動

次の方々が異動された。

1 退職（教科および在職年数）

金澤 秀美（副校長、3年）
 會澤 浩（事務室長、2年）
 教育庁財務課へ
 柏 雄司（社会、4年）
 水戸南高へ
 橘 千代子（国語、2年）
 水戸桜ノ牧常北校へ
 前島 秀雄（数学、2年）
 南雲 慎也（体育、1年）
 佐藤 秀俊（英語、1年）
 那珂高へ
 加藤 郁世（家庭、5年）

2 転出

関根 央（国語、9年）
 銚田一高へ
 山縣 創明（社会、8年）
 歴史館へ
 吉富 忠宏（社会、13年）
 竹園高へ
 平塚 佑二（数学、3年）
 水戸一付属中へ
 川村 学（数学、7年）
 並木中等へ
 久保 佳彦（体育、13年）
 水戸一付属中へ
 竹内 達郎（体育、10年）
 土浦三高へ
 古川 正（英語、11年）
 太田一高へ
 薄井 大輔（英語、1年）
 水戸一付属中へ

3 転入（学校名は前任校）

石井 伸一（副校長、緑岡高）
 飯岡 孝行
 （事務室長、水戸商高）
 佐藤 裕紀（国語、太子清流高）
 内田 博明（社会、竹園高）
 井坂 拓海（社会、太田一高）
 角田 仁（数学、那珂高）
 平山 健二（体育、保健体育課）
 宮澤 美香（英語、東海高）
 磯貝 瑞希（養護、牛堀中）
 中村健太郎（数学、新規採用）
 稲田 敬一（社会、常勤）
 野田 慎也（社会、育休補充）
 金子 一子（家庭、非常勤）
 矢崎 寛子（国語、明光中）
 鈴木 達也（社会、水戸二中）
 斎藤 正彦（数学、東海南中）
 山崎 智美（理科、銚田南中）
 岩田 真暢（理科、水戸四中）
 鴨志田千晃（体育、水戸三中）
 白石 拓史（英語、石岡一中）

武藤 直史
 （技術、水戸二中と兼務）
 島崎 憲子
 （学校栄養職員、新規）

入試結果と進路状況

主な大学の合格者数を以下に記す。（ ）内は現役合格者数。

○国立大学

北海道大	9（8）
東北大	38（31）
茨城大	35（32）
筑波大	23（18）
埼玉大	5（5）
千葉大	14（9）
お茶の水女子大	2（2）
東京大	23（20）
東京医科歯科大	1（1）
東京外語大	2（2）
東京学芸大	6（3）
東京工業大	2（2）
一橋大	2（2）
横浜国立大	4（2）
名古屋大	4（2）
京都大	3（1）
大阪大	2（1）
神戸大	3（1）
九州大	5（3）

○私立大学

青山学院大	9（8）
慶應義塾大	15（12）
上智大	8（4）
中央大	122（40）
東京理科大	48（23）
法政大	69（32）
明治大	51（26）
立教大	22（16）
早稲田大	28（16）

○医学部医学科

国公立	21（11）
私立	15（6）
準大学	1（0）

（令和3年4月1日現在）

中学校入学式

令和3年4月7日（水）茨城県立水戸第一高等学校附属中学校の開校宣言および入学式が、本校で盛大に挙行されました。入学式の前に行われた開校宣言で、小泉元伸教育長から「失敗を恐れずに挑戦し、困難を乗り越えてほしい」という言葉を贈られました。また、大井川和彦知事からは、「失敗を繰り返しながら、自ら未来を切り開いていける資質、

能力を身につけてもらいたい」などのメッセージも寄せられました。

入学式では、高村祐一校長より「果敢にさまざまなことに取り組んでほしい。入学おめでとう」と祝辞が述べられました。真新しい制服に身を包み、期待に胸を膨らませ、目を輝かせている男女各40名、計80名の新入生の姿は、印象的でした。日本から世界へと視野を広げたい生徒、地域医療のために貢献したい生徒、最先端技術の発展のために研究をしたい生徒、さまざまな思いや願いが実る礎をここ附属中学校で育めるよう見守っていただきたいと思います。



令和2年度グローバル・リーダー・プログラム実施報告

令和2年度の一年生も、3月のボストン・ニューヨークへの派遣に向けて準備を進めてきましたが、残念ながら新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、中止となりました。日本国内でも交流を図ることはできないかと検討を重ね、グローバル・リーダー・プログラムと名前を変更し、オンラインでのプログラムに切り替えて、研修を実施することになりました。実施に際し、知道会から様々なご支援をいただきまして、感謝しております。

30名の生徒が、3月12日に東京グローバルゲートウェイにおいて、15日～17日に本校においてのインターナショナル・オンライン・プログラムに参加しました。

東京グローバルゲートウェイは、東京都の教育委員会が立ち上げた体験型英語学習施設です。施設内では原則日本語禁止で、エアポートゾー



エアポートゾーンにて

ンやキャンパスゾーンで体験しながら、英語でのやり取りを学ぶことができました。

本校と米国をオンラインで結んだ3日間の研修では、会議システムZOOMを利用して、5～6名のグループで、ハーバード大学の学生やハワイ大学の学生とのディスカッション、ハワイの高校生との交流を行いました。また、ハーバード大学卒業生を講師として、2つのワークショップを受講しました。「SDGsの視点から、日本は難民を受け入れるべきかどうか」「コロナウィルスのワクチン接種を進めるにはどうすべきか」について議論を行い、様々な観点から解決策を探りました。さらに、メディカルスクールで学ぶ学生が講師となったワークショップでは、医学を志す生徒たちから、積極的な質問が続き、時間が足りないほどでした。最終日には、生徒たちがそれぞれ取り組んできた課題研究について、ハーバード大学の学生メンターに対して、プレゼンテーションを実施しました。メンターからのフィードバックや質疑応答もあり、充実した時間となりました。

最後に生徒の感想を紹介します。

- ・本当は現地に行ってみたかったけれど、話し合いなどに関してはオンラインでもなかなかのものになったと感じた。想像以上に外国の方と話す機会があったのでよかった。将来外国との関わりがある時に今回の経験を活かしたい。
- ・思ったより自分の英語を話す力を伸ばすことができたと思う。これを英語ではどうやって言えばいい



キャンパスゾーンにて



ワークショップ

んだらうと、常に考えるようになって、自分の考えを表現しやすくなったと思う。

- ・この3日間で本当に多くのことを学べた。できることなら、少なくとも1週間はこのプログラムが続いてほしかった。元はボストン行きの予定だったが、オンラインでハーバード大やハワイの方々と交流することができ、オンラインだからこそというものもあって、とても有意義な3日間だった。
- ・アメリカに行けなかったけれど、日本にいながらこのような体験ができたことは、とても幸せでした。英語に少し慣れることができた気がします。英語を学ぶこと以外にも、これから役立てられる貴重なアドバイス、ヒントを得ることができました。

(担当：寺田尚子 荒貴竜斗)



ディスカッション

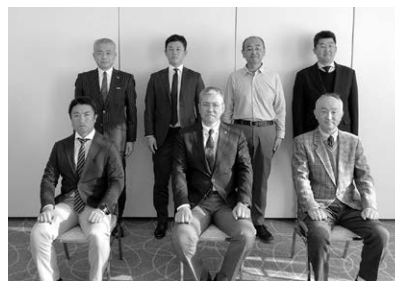
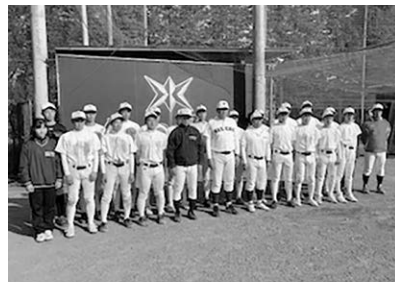


修了式

早稲田大学野球部小宮山悟監督による特別指導を受けて

令和2年12月13日、早稲田大学野球部 小宮山監督に水戸一高グラウンドに来ていただき現役部員に特別指導をしていただきました。早稲田大学野球部と水戸一高野球部には、『学生野球の父』飛田徳洲先生、石井連蔵先輩(ともに野球殿堂入り)やその他多くの水戸一高野球部OBが活躍し、一球入魂の精神を受け継いでいくという長い伝統があります。

今回は石井連蔵監督と小宮山主将(現役当時)という固い絆のもと特別指導が実現することとなりました。



た。小宮山監督はグラウンドに入る前に飛田徳洲先生の胸像に最敬礼され、WASEDAのユニフォームに身を包まれた姿は風格があり輝かしいものでした。そしてブルペンに入り投手陣を中心にご指導いただき、手取り足取り懇切丁寧に針の穴を通す投球術の一端をご教授いただきました。またグラウンドにおきましては、自分のプレーだけではなく、相手のことを考えたプレーを念頭においてフィールディングすることがチームとしてのレベルアップの基本、とご指導いただきました。また、見学に来ていた野球部入部希望の中学生には、是非水戸一高野球部に入り、一球入魂の精神を受け継いで早稲田大学野球部に来てください、と野球少年が感激するお言葉をかけていただきました。練習終了後の懇談の中で、小宮山式野球指導術の一端もご披露いただきました。今後も両校野球部は交流を深め全力で応援していただけることとなり、今回の特別指導が現役部員達の大きな励みとなり、甲子園出場することを熱望しています。知道会会員の皆様も、硬式野球部にご支援の程よろしくお願い致します。

黒木雅宏(昭58卒・水府倶楽部
(硬式野球部OB会) 副会長)

映画の話

小泉堯史さん（昭39卒）は、黒澤明監督の助監督を長く務め、デビュー作の『雨あがる』（黒澤明脚本）でヴェネチア国際映画祭「緑の獅子賞」を受賞しました。新型コロナウイルスの影響を受け、延期されていた最新作『峠 最後のサムライ』の公開日が、7月1日に決定しました。

映画への思い、作品への取り組みなど、高校、同級生の思い出とともに語っていただきました。



インタビュー 2021.3.28 知道会館・水戸一高
聞き手／平戸正英（平13卒） 撮影／菊地克仁（平13卒）

一母校や水戸に帰ってくるのは久しぶりでしょうか？

水戸一高に来るのは卒業してから初めてじゃないでしょうか。全然記憶と違って様変わりしていて、驚いています。クラス会で「39会」というのがあって、それは必ず出るようにしています。その時だけですかね、水戸に戻ってくるのは。

撮影では、今度公開する『峠』の撮影で弘道館の「尊攘」の書を撮らせていただきました。その時は水戸に来ました。

一高校時代の思い出などはありますか？

思い出というか、今でも水戸一高の同級生たちにはお世話になっています。今でもずっと繋がっていて、途切れることはないですから。

例えば撮影で役所広司さん（『峠』



の主人公の河井継之助役）が、弓道場で弓を引いている場面があるんですよ。そのとき、同級生で弓道部のキャプテンだった白石君に指導に来てもらいました。それから大久保君という人には、役所広司さんが詠う「詩吟」の指導をしてもらいました。学友たちにはエキストラにも参加してもらっています。

優秀な友達に恵まれたと思います。僕は剣道部にいましたが、音楽もやっていて、テナーサックスを持っていました。「mito 1st jazz band」というバンドで学苑祭も出ました。楽しかったよね。音楽で才能があった仲間には、今でもプロでやっている人がいます。

一映画の道に行くきっかけは？

高校時代は映画って観たことないんです、写真や映画が嫌い。これが全然合わないんですよ、当時はね（笑）。高校を卒業してから写真の方に行っただんですけど、やっているうちにこれは面白いと思うようになりました。ちょうどベトナム戦争の頃で、戦場カメラマンや海外の人々



代表作
「雨あがる」（1999・監督）「阿弥陀堂だより」（2002・監督／脚色）
「博士の愛した数式」（2005・監督／脚本）「明日への遺言」（2007・監督／脚本）
「蝸ノ記」（2013・監督／脚本）

の暮らしを撮影する人たちがいた。そういう人に惹かれて、勉強をしようかと思って、早稲田に行って、その中で黒澤明さんの映画も観て、これも面白そうだなと思いました。黒澤さんのもとで学びたいと思って、自分で手書きで手紙を書いたり、電話をしたりして、運よくそこに潜り込めた、という感じです。

一いま水戸市を含め茨城県では映画等の撮影誘致事業（フィルムコミッション）に力を入れています。今後、茨城や水戸での撮影などは考えていらっしゃるでしょうか？

作品にもよるんですよ。もしそういう作品が書ければ、ぜひ茨城県や水戸市のフィルムコミッションにも協力してもらいたいと思います。今は、昔黒澤さんとやっていたときとは違って、フィルムコミッションの協力がないと撮影ができないくらい、とても大事です。

今度の作品でも、冒頭に徳川慶喜が出てきて、「水戸学」というものが大事で、それで弘道館での撮影のときにはお世話になりました。

一その新作『峠—最後のサムライ—』についてお聞きします。新型コロナウイルスの影響で公開延期になっていましたが、いよいよ7月1日に公開となります。今のお気持ちは。

完成してから2年近く経っていますからね。もっと早く届けたかったです。お客さんに届けて初めて終わるんですよ、映画の仕事というのは。届けないことには終わらないので、早く公開して、次に進みたいと思っています。



水戸一高演劇部の根本大輝さん（16）
がインタビューを見学

小泉さんが、映像作りで大切にしていること、高校時代の経験がどのように現在に生きているか、そして、小泉さんが役者に求める「演技」とはどういうものか、真剣に聞き入っていました。

—撮影のこだわりや、見てほしいポイントなどありますか？

主人公の河井継之助というのは、幕末の歴史上の人物なんですよ。その時代に生きた人には自分から想像力を持って接して、できるだけ寄り添っていかないと、なかなか心を開いてくれない。その時代を生きた人の「言葉」が大事で、言葉がその人を連れてきてくれる。ひとつひとつの言葉を大切に撮ったつもりです。

もちろん、司馬遼太郎さんの原作が僕にとって全てです。原作をいかに大事にして長編を2時間という映画の時間の中に溶け込ませるかが非常に大事です。何とか、司馬さんが描こうと思っていた「河井継之助」を映画の中に捉えられたんじゃないかな、と思っています。

—最後に、『知照会報』読者の皆さんや、後輩にメッセージをお願いします。

弱ったなあ（笑）。「この映画を観てください」というのはメッセージにならないよね（笑）。



水戸のように長い歴史のあるところでは、明治維新への大きな力となった水戸学のこともあるし、歴史をどう捕まえるかが大事です。もう一度水戸の歴史を見つめなおしてほしいな、という思いはあります。

水戸一高の校歌にしても、「義人烈士の功績ぞ」という歌詞があります。この「義人烈士」がどういうことをしたのか、きちんとその人を知ることが大事です。それにはやっぱり、その人物に近づいていかないと、心を開いてくれないはずな

んです。 「忠孝仁義の大道を」とみんな歌っていますが、「忠」は何を表し、「孝」は何を表すか。自分でつかみ取らないと、自分のものになりません。校歌ひとつ取っても、歴史の中で捕まえるべきことが色々あるはずなんです。「至誠一貫」もそうですし、「堅忍力行」にしてもそうです。言葉が今の私たちに伝えてくれるもの、それを、もう一度自分で歩み寄って、つかんでほしいと思います。



約2時間に渡るインタビューの全体は、知照会ホームページで公開します。小泉さんの映画の特徴である、3台のカメラを使用する撮影法、高校時代の「自動車部」の思い出、黒澤監督との出会い、ヨーロッパ放浪旅とは？

書籍紹介

ことばがこどもの未来をつくる
—谷川雁の教育活動から
萌え出でしもの—

仁衡琢磨（S63卒）著
アーツアンドクラフツ、2020年
3,190円（税込）

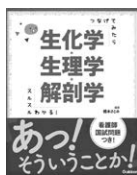


著者は自らの「ラポッ子」経験を通して、谷川雁のラポ教育の現代における意義を伝えようとしている。ラポ教育から著者が受け取ったものは、「外国語で表現する力」「物語を愛する人生」ということに集約できる。

ラポ教育が外国語・外国人・外国文化を教育へのアプローチとするのは、子どもたちが世界の全体性を感じ取ることのできる人間になるため。物語の重視は、知識の獲得とそれを解体し、再創造させる表現力の養成のため。谷川雁の目指した教育は「表現の教育」であり、子どもたちが自らと世界をしっかりと表現できる力を育てる教育だったと言う。谷川雁の思想を実践するラポ教育への熱い思いがあふれる書。後半は、谷川雁研究書になっている。

つなげてみたらスルスル
わかる！生化学・生理学・解剖学

橋本さとみ（H8卒）著
学研メディカル秀潤社、2020年
2,860円（税込）



専門基礎である生化学、生理学、解剖学の3科目をまとめて全体像をつかんでしまおう！をテーマに、楽しく読み進めることができる。看護学生のための学習書『ナーシング・キャンパス』に連載されていた内容をまとめたもので、各ページにはやさしい色のかわいいイラストがたくさんあり、癒されながら飽きずに勉強ができるようになっている。また、看護師国家試験の過去問がついており、アウトプットもできるように工夫されている。直接学問に関係のない人でも抵抗なく読み進んでいけるやさしさにあふれた一冊。

総務委員会

令和3年知照会会員の集い実行委員会のスタートとして、例年ですと3月ごろに昨年の会員の集いの反省会および幹事引継ぎ会を開催しておりますが、昨年の会員の集いが講演会のみで開催で懇親会実施されなかったことや、現在においての新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みて実施できておりません。今後の予定として、令和3年11月の知照会会員の集いに向けて、総務委員会と本年の集いの企画運営にあたる学年幹事（平成2年、平成11年、平成12年、平成21年、平成22年卒）で構成される実行委員会を6月に実施予定です。令和3年知照会会員の集いの実施詳細につきましては、随時知照会ホームページ等でお知らせ致します。

※現在、新型コロナウイルス感染症の関係で総務委員会におきましても従来の方法での会議、イベント等の実施が困難となっております。今後の予定につきましては危機管理を第一に考慮しながらもその時の状況に応じて工夫をしながら柔軟性をもって対応致します。

（総務委員会委員長 斎藤修（平6卒））

第70期 知照会幹事会及び委員会名簿

顧問	後藤卓三（S19）、西野虎之介（S23）、角田芳夫（S28）、☆鬼澤邦夫（S38）高村祐一（S56）
会長	☆稲葉節生（S38）
副会長	井内義興（S33）、☆後藤克己（S43）、江幡秀則（S47）、☆栗原英則（S48）☆伊藤道子（S53）
幹事長	河野秀幸（S63）
副幹事長	飯塚博之（S56）、鹿志村茂（H5）
総務委員会	☆◎齋藤修（H6）、*◎細貝雅之（S61）、*◎坪井正幸（H5）黒木雅宏（S58）、橋本慎（S58）、竹村広治（H3）、倉田章吾（H3）、住谷則昭（H4）、加瀬昭宏（H5）、川崎篤之（H8）、佐藤蘭弥（H8）、星野博史（H11）、住谷直樹（H14）☆矢板淳一（H16）、北澤佑子（H17）山村美樹（H19）
財務委員会	☆*◎出澤琢磨（H1）、☆*◎仲田留美（S63）、☆*◎坂本正弘（H1）太田聖史（S58）、猪野嘉彦（H2）、坏なきさ（H3）、稲野知穂（H19）☆
名簿委員会	☆*◎加賀美理帆（S59）、*◎後藤直樹（S54）、☆*◎野村貴広（H7）須能浩信（S60）、岡村太郎（H7）、岡村有希子（H7）、渡邊優美（H15）
広報委員会	☆*◎磯美保（S60）、*◎宮内寿子（S47）、☆*◎和知忠道（H11）、内藤学（S53）、後藤岳志（S54）、森田真理子（S56）、平井夏樹（S56）、平山桂己（S59）、小林典子（H6）、田中亮（H9）、海老澤佳之（H9）、中原清人（H9）、菊地克仁（H13）、☆平戸正英（H13）
親睦委員会	*◎加藤尚弘（H6）、*◎磯崎雄司（H1）、*◎海老根武（H2）、橘川栄作（S56）、君和田利智（S57）、小澤一利（S58）、高林憲一（S58）、黒澤広忠（S58）、高橋淳子（S58）、原口哲也（S60）、田部田英智（H6）、堀野辺直（H6）、藤田奈津子（H13）、三村玲緒（H19）、加藤祐介（H19）
幹事	☆*玉川明（S55）、☆*飛田清文（S55）、*園部孝雄（S57）、*小松崎光一（S60）、☆*赤津翔（H14）、*石井健司（S56）、
監事	小野瀬益夫（S51）、☆安智範（S60）
事務局	徳永美佳（S59）

2021.3.24現在

（ ）卒業年次、*幹事、◎委員長、○副委員長、☆新任

親睦委員会

だれもが参加できる知道会へ年齢を超えて「水戸一高」という共通項で交流を図るために企画実行するのが、親睦委員会です。

しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、残念ながら前年度から活動休止状態です。状況が落ち着いたら、みなさまと親交を深められる企画を打ちたいと思っています。引き続きご協力をお願いします。

(親睦委員会委員長 加藤尚弘 (平6卒))

財務委員会

年会費の納入は、便利で手間いらず！銀行等預金口座振替をご利用ください！

現在、「口座振替キャンペーン」を実施中です！本年5月1日から9月30日までの期間で口座振替の手続きをして頂いた方を対象にクオ・カード（1,000円）を進呈しております。

ぜひ、この機会に年会費納入を口座振替へ!!なお、振替依頼書は事務局より送付しておりますのでご連絡ください。

(新任：財務委員会委員長 出澤琢磨 (平1卒))



名簿委員会

名簿発行につきまして会員の皆様の日頃のご協力に感謝申し上げます。この度名簿委員会委員長を拝命しました加賀美です。前期は副委員長とは名ばかりで水戸委員長にお任せするばかりでした。微力ながらお役に立てる様尽力致しますので、ご指導の程よろしく願い申し上げます。近年の情報を巡る状況は変化が著しく、その中で名簿のもつ意味合い及び役割、更には個人情報保護の視点からの留意点につき委員会としても熟慮していく時期であると考えております。一方で会員相互の親睦や職域の情報交換等の一役を担うものでもあり、より有用な名簿発行に向けて努めていく所存です。引き続きの御支援につき何卒よろしくお願い致します。

(新任：名簿委員会委員長 加賀美理帆 (昭59卒))

広報委員会

広報委員会は、会員同士をつなぐ大切なツールとして、すべての会員に向け、必要かつ有益な情報の提供を第一目的にしています。インターネット等も利用した、より効果的な発信も模索しながら、知道会をさらに身近に感じていただけることを目指します。取り上げて欲しい話題、人物など常時募集しておりますので、ぜひ、お寄せください。

(新任：広報委員会委員長 磯美保 (昭60卒))

物 故 者 (R 2. 9 ~ R 3. 3 迄にご連絡を頂いた方を掲載しました。)

歴代校長 安見 隆雄	昭25高 戸井田高明	昭30高 結解 勉	昭37高 遠坂 創三
歴代校長 濱崎 厚	昭25高 箭原 照夫	昭30高 萩谷 倭	昭38高 渡邊(小西)陽子
旧職員 大地 一男	昭25高 乾 守次	昭31高 白土 主計	昭38高 高田 順哉
旧職員 片岡 謙寿	昭25高 飯村 一雄	昭31高 菊地 耿介	昭39高 太田 祐史
旧職員 川上不二夫	昭25高 森 章太郎	昭31高 古谷 泰賢	昭39高 吉村 隆明
旧職員 近藤 實	昭26高 佐藤 克三	昭31高 小林 英	昭39高 海沼 信昭
昭4中 柴田 実	昭26高 上田 宏	昭31高 磯崎 元佳	昭40高 薄井 正道
昭14中 米川 克己	昭26高 矢萩 司郎	昭31高 関(山田)勝利	昭40高 金子 誉夫
昭18中 増田(川又)永光	昭26高 大高 泰	昭31高 間宮 徹	昭41高 額賀 直
昭18中 寺山 忠	昭27高 秋元 直彦	昭32高 柳葉 慎一	昭41通 渡邊 潤平
昭19中 徳蔵 敏夫	昭27高 海老根志朗	昭32高 倉井 康則	昭42高 軍司 吉郎
昭20中⑤関根 隆	昭28高 田口 嘉男	昭32高 塩幡 隆	昭42高 坂場 順子
昭20中⑤立原 徳治	昭28高 鯉淵 弘道	昭32高 小林(根本)隆夫	昭42高 飛田 格
昭20中④関 龍郎	昭28高 大須賀克己	昭33高 梅原 稔	昭43高 福田 喜好
昭21中 田村 潤一	昭28高 郡司 俊夫	昭33高 石川 勤	昭44通 渡辺 進
昭22中 川野辺泰三	昭28高 川崎 稔	昭33高 山岸 力	昭45高 小林 光一
昭23中 大和田郁夫	昭28高 海老沢(来栖)啓子	昭33高 熊谷 文男	昭46高 芳賀 秀明
昭23中 関 博視	昭29高 介川 武夫	昭34高 長谷川紀夫	昭47高 橘 道彦
昭23中 丹下 一郎	昭30高 内藤 恵吉	昭35高 栗原 正秀	昭55高 國井 行雄
昭23中 富山 洋一	昭30高 小貫 誠	昭35高 加藤 允	平21高 鈴木 梨加
昭24高 武藤 馨	昭30高 大内 克己	昭35高 立枝 功男	
昭24高 森田 晋	昭30高 松嶋 昭	昭36高 近藤 勇	

【事務局から】

新緑の美しいこの季節に、水戸一高附属中学校の第一期生が本城橋を渡って登校して来ます。新しい制服も初々しく、校門に掲げられた校名のプレートも新しくなりました。今、校内には様々な花が咲き乱れて、まさに春爛漫です。

水戸一高の新しい未来が、春の勢いで輝いているようです。

学校基本データ

学校創立	1878年(明治11年)10月2日
令和3年	創立143年
同窓会員数	39,061名
住所判明者数	21,800名
在籍生徒数	高校 926名(男子500名 女子426名)
	中学 80名(男子 40名 女子 40名)
	(令和3年4月現在)